令和５年６月　南魚沼市議会定例会
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質　問　者	日程
1	11	塩　川　裕　紀	１２日（月）
2	4	目　黒　哲　也	
3	1	黒　岩　揺　光	
4	10	吉　田　光　利	
5	14	寺　口　友　彦	
6	8	永　井　拓　三	
7	7	中　沢　道　夫	１３日（火）
8	15	中　沢　一　博	
9	13	佐　藤　　剛	
10	5	梅　沢　道　男	
11	18	牧　野　　晶	
12	19	桑　原　圭　美	
13	3	大　平　　剛	１５日（木）
14	12	清　塚　武　敏	
15	6	田　中　せつ子	
16	22	関　　常　幸	
17	2	川　辺　きのい	
18	9	勝　又　貞　夫	
計		１８名	

【質問方式】（質問制限時間は、いずれも答弁時間を含め 60 分）

一括質問一括答弁方式：　全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。（初回は登壇して行い、質問回数は３回まで。）

一問一答方式：　質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

複合型一問一答方式：　一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。（質問回数に制限なし）

質問順位	質　問　内　容
1 議席 １１ 塩川裕紀 （一問一答方式）	**買物弱者救済対策について** 今年５月、大巻地域、五十沢地域の食料品を扱う店舗が閉店した。そこを頼りにしていた高齢者から悲痛な声が上がっている。 車の運転ができない一人暮らしの高齢者の方々のためにも、買物弱者救済対策が早急に必要だと考える。 （１）試験的に実施している移動販売車の現状は。 （２）民間の力を活用し、小売店誘致に真剣に取り組む考えはないか。 （３）現在、地元で努力されている店舗へのサポートの考えは。

質問順位	質　問　内　容
2 議席 4 目黒哲也 （一問一答方式）	**地方創生の推進について** 人口減少や少子高齢化、地域衰退などの問題は、多くの地方自治体が抱えている。人口減少によって生活関連サービスの縮小や行政サービスの廃止・有料化が進み、少子高齢化で廃業が増え、地域経済は大打撃を受けている。また、地域が衰退すれば、治安や居住環境の悪化、災害危険性の増大、生活利便性の低下につながり、人口減少に拍車をかけることにもなりうる。 このような地方自治体が抱える問題を解消するための取組が地方創生である。 市では地方創生を推進し、多様化する地域課題の解決に取り組むため、多方面にわたる知見を有し、中央とのつながりのある有識者として産業育成支援特別顧問と政策アドバイザーを選任した。 そこで以下の３点について伺う。 （１）多様化する当市の地域課題は何か。 （２）産業育成支援特別顧問の選任後の具体的な施策は。 （３）政策アドバイザーの選任後の具体的な施策は。

質問順位	質　問　内　容
3 議席 1 黒岩揺光 （一問一答方式）	**1　健診施設の新築計画に着手すべきかどうか、市長選で民意を問うべきではないか** 市は現在３か所で住民健診を実施しているが、30 億円以上かけて健診施設を新築し、健診実施場所を１か所に集約しようとしている。車が運転できない高齢者にとって、健診を受ける場所が遠くなるのは死活問題だ。前回の市長選挙で公約にもしていない健診施設新築事業に多額の税金を投じるべきかどうか、次の市長選で民意を問うべきではないか。 **2　一度支出した市長交際費の支出を取り消したのは、その支出が不適切だったからか** 令和４年 11 月 27 日、林市長は塩谷寿雄議長就任祝いに参加し、市長交際費から会費 10,000 円を支払った。しかし、その後、その支払いを取り消し、私費に切り替えたが、その理由について伺う。 **3　「女性は主体性がない」などの固定概念にどう打ち勝つことができるか** 市が行政区長対象に実施したアンケートで、昨年同様、女性は主体性がないなど、蔑視的なコメントであふれていた。しかし、このアンケート結果が配られた行政区長会で林市長はこの結果について何も言及しなかったが、こういう固定概念に打ち勝っていくという姿勢を見せるべきではないか。 **4　もっと市民の声に寄り添う姿勢を** 市長が市民全員の声を聞くのは容易ではない。そのために、市民の代弁者である 22 人の議員から市長が意見を聞くために議会という場が設けられている。しかし、これまで林市長は議会で議員の発言中、不規則発言を繰り返し、発言が中断されることまであったが、改めて、市民の声にどう寄り添おうとしているのか伺う。

質問順位	質　問　内　容
4 議席 １０ 吉田光利 （一問一答方式）	**１　農地の維持保全管理や施設長寿命化について** 農地の維持管理や施設の長寿命化は、多面的機能支払事業を中心に各農家が取り組んでおり環境保全面からも有効的な事業である。しかし、用排水路の老朽化は広範囲で深刻な状況であり、予算的に思うように進まないのが現状である。 （１）農地施設の長寿命化工事に対して、ふるさと応援活用基金の活用で工事費用を支援し、工事加速化の検討を考えられないか。 （２）多面的機能支払事業での維持管理と施設長寿命化の予算配分について、自由度を持たせることはできないか。 **２　起業家育成教育について** 市では松井基金を出発点として事業創発拠点を中心に社会人対象の育成に取り組んでいるが、全国各地で中高生の起業家育成教育が進んでいる。中高一貫校の津南中等教育学校は、探求学習の一環として起業家の教育に力を入れている。 将来の人材育成と成長に向けて、中高生への起業家育成教育を進めるべきと思うがどうか。

質問順位	質　問　内　容
5 議席 14 寺口友彦 （一問一答方式）	**1　市民病院での医療人材確保について** 市民病院での診察人数制限解消と大和病院での働き方改革のためには医療資源の集約を急ぐべきではないか。 **2　深井戸の監視井戸設置について** 深い位置での沈下監視のための深井戸監視井戸を設置すべきではないか。 **3　ＪＲ東日本上越線無人駅の駅舎、空き地の再利用事業について** ＪＲ東日本が展開する無人駅コミュニティ拠点化に市も協働で乗り出すべきではないか。 **4　移住・定住策として若者への運転免許取得費用助成について** 高校を卒業して市内に住む、また都会から移住して市内に住む人の運転免許取得費用に助成金を出すべきではないか。

質問順位	質　問　内　容
6 議席 8 永井拓三 （一問一答方式）	**市の環境政策について** 新ごみ処理施設や雪エネルギーの研究、バイオマスプラスチックのごみ袋の導入など、環境に対する政策に積極的に取り組んでいるが、その成果と今後の計画について以下のとおり質問する。 （１）市民からバイオマスプラスチックのごみ袋の強度が落ちて使いにくいという不満が出ているが、その問題をどう捉えているか。 （２）バイオマスプラスチックのごみ袋は、以前の物に比べて環境に対してどれほどの物理的な効果があるか。 （３）小中学校における環境教育をどのように行っていくか。 （４）雪エネルギーの研究等は約５年が経過しようとしているが、どのような成果が出ているか。また市民生活において実用に至るような知見を得られているか。 （５）新ごみ処理施設と環境教育やエネルギーの利活用について連動する具体策はあるか。

質問順位	質　問　内　容
7 議席 7 中沢道夫 （複合型一問一答方式）	**1　温室効果ガス削減を目指す取組について** （１）地方公共団体実行計画（事務事業編）の目標と計画をどのように定めようと考えているのかを伺う。 （２）地域内の脱炭素化の目標と計画、いわゆる区域施策編の策定も必要と考えるが、予定を伺う。 （３）再生可能エネルギー開発は、各地でトラブルを起こしている。実効性のある開発には自治体の果たす役割が大きいと思うが、認識を伺う。 （４）雪資源の活用も重要だが、個人宅まで広げるためには、ノウハウの蓄積や資金面での援助など、課題も大きい。複合的な自然エネルギーの活用の取組が必要と考えるが、認識を伺う。 **2　県の地震被害想定調査を踏まえた対応について** （１）防災マップが配布されたが、地震のことは触れられていない。認識を伺う。 （２）Ｓランクの断層帯も近くにある。周知が必要と考えるが、認識を伺う。 （３）耐震診断と耐震改修への補助制度について、周知徹底を強めるべきと考えるが、認識を伺う。

質問順位	質　問　内　容
8 議席 15 中沢一博 （一問一答方式）	**1　増え続ける空き家の対策強化を** 国内の空き家は2018年時点で849万戸あり、住宅の総数に占める割合は13.6%に上る。このうち、居住目的のない空き家は349万戸で20年前からほぼ倍増し、2030年には470万戸まで増加する見通しという。今後も増える見通しを踏まえ、発生そのものを防ぐ対策の充実・強化が欠かせない。 空き家状態となる前の段階から有効活用や適切な管理を促す、発生抑制に向けた対策強化策を伺う。 （1）当市の現状はいかに。 （2）空き家が発生する前段階での介入をどう進めていくか。例えば、所有者と家族の間で相続が発生する前から住まいの終活として対処を話し合うことの重要性を啓発する必要があると考えるが。 （3）民間団体の活動を含め、空き家バンク登録の働きかけや、空き家の所有者と移住希望者のマッチングなどの体制整備について伺う。 （4）特定空家の対策強化について伺う。 （5）長寿命化に資する大規模修繕工事を行ったマンションに対する特例措置の創設について伺う。 **2　不便地域解消を目指す高齢者の足の確保や買物難民の対策を** 利用者の減少で地方の交通事業者の経営が苦しくなる中、住民の足をどう確保するか。併せて、食料品など日常の買物に困っている高齢者などを支援するため、宅配サービスや移動販売車の導入など生活現場をどう守るか。市の現状と対策について伺う。 **3　保育所等の使用済みおむつの処分と費用の負担軽減を** 保育所等における使用済みおむつの処分の実情と、処分器具の購入補助支援について伺う。

質問順位	質　問　内　容
9 議席 13 佐藤剛 （一問一答方式）	**人口減少社会にどう向き合い、まちづくりをどう進めるか** 人口減少は、行政運営のあらゆる面で支障を来すが、人口減少による人材不足も大きい。そのことがさらに行政運営の難しさにつながっている。人口減少は止められないにしても、どれだけ人口減少を抑えられるかが大きな課題であり、その取組の中で将来的には人口の社会増に結びつけられる可能性もある。この人口減少社会の現実に向き合い、人口は減っても安心して暮らせる、活気あるまちづくりをどう進めるかは重要だ。 （１）自治体ＤＸ推進、ＡＩ活用で、新たな住民サービス向上と人口減少社会を乗り切るまちづくりを。 ①自治体ＤＸ推進には、まず文書管理のデジタル化が必要ではないか。 ②医療ＤＸ推進で、医師等医療スタッフの不足を補完し、医師の働き方改革への対応を。 ③ＡＩオンデマンド交通で、高齢者も安心の交通手段確保を。 （２）必ずしも移住定住ではない二地域居住推進に向けた環境整備で、人口減少の中でもにぎわうまちづくりを。 ①立地の優位性を生かして二地域居住を行政施策として積極的に取り組む考えはないか。 ②区域外就学制度活用等で二地域居住モデル地区を設定し、具体的な取組を。

質問順位	質　問　内　容
１０ 議席 5 梅沢道男 （一問一答方式）	**１　教師の多忙化解消と職場環境改善の取組について** （１）文部科学省の教員勤務実態調査によれば、超過勤務が月 45 時間を超える教諭が小学校で 64.5%、中学校では 77.1%となっており、過労死ラインを超える教諭も多く報告されている。当市の実態について伺う。 （２）教師の多忙化解消に向け、全国的にも進んでいる給食費の公会計化、登下校の見守り対応の移行、業務終了後の電話対応の自動音声化等の導入に向けた考えを伺う。 （３）スクールサポートスタッフの業務について、各校の事例等を共有し、業務内容の具体化や効率化を図るべきではないか。 （４）通知表の所見等の簡略化など、書類作成の効率化に向けた取組状況や今後の考えについて伺う。 **２　不適切保育の現状と防止対策について** （１）こども家庭庁の実態調査により、不適切な保育が全国で 914 件確認された。本県でも８件確認されたが、当市における不適切保育の把握状況について伺う。 （２）国の保育士配置基準は、現在、１歳児は園児６人に１人の配置となっているが、個人差が極めて大きい１歳児の保育士配置基準としてはあまりにも無理がある。市内においても、私立保育園では、県の補助もあり既に３対１の体制が基本となっている。国もこの部分の見直しに着手しているようだが、当市の今後の対応について伺う。 （３）保育士の業務負担の軽減に向け、保育補助者の導入、書類の様式や記載方法の効率化、登降園管理システム・午睡チェックセンサー等の導入によるＩＣＴ化の推進などに向けた考えを伺う。

質問順位	質　問　内　容
１１ 議席 １８ 牧野晶 （一問一答方式）	**１　医師の働き方改革について** （１）医師の働き方改革が 2024 年４月から始まる。市立病院群の対応は。 （２）市内医療機関の実態を把握しているか。 **２　路線バスの休止報道について** （１）通勤・通学・観光面で大きな影響が出ると思うが、実態は。 （２）路線バス、市民バスは高齢者の足の確保という点で高齢者福祉・病院運営など部をまたぐ事業だが、庁内連携は整っているか。

質問順位	質　問　内　容
１２ 議席 １９ 桑原圭美 （一問一答方式）	**部活動の地域移行と環境整備について** 今年度から開始された部活動の地域移行により生じている問題と今後の展望について、文部科学省の学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインに沿って、市の考え方を問う。 （１）地域移行の開始で、どんな問題が生じているか。 （２）学校部活動について ①部活動指導員と外部指導員の確保について、どのように進めているか。 ②平日１日、休日１日という休養日の設定が望ましいと言われているが、休養日の設定はどうなっているか。 ③強制加入の禁止がうたわれているが、部活動は学校教育の一環というこれまでの位置づけとの整合性はどうなるのか。 ④各中学校で考え方が異なる部分が生じているが、今後、統一させていくのか。 （３）新たな地域クラブ活動について ①地域クラブ活動の運営団体や実施主体の整備充実をどう進めていくのか。 ②意欲のある教員が地域クラブとの兼職兼業を希望した場合はどうするのか。 ③公共施設を利用する場合の負担軽減と利用促進についての考えは。 （４）地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備について ①地域連携・地域移行に向けた、３年間の改革推進期間に対する具体的な取組は。 ②若者の定住策として、社会人になっても活動できるスポーツ・文化活動の環境整備の推進が必要と考えるが。

質問順位	質　問　内　容
１３ 議席 ３ 大平剛 （一問一答方式）	１　防災力強化について （１）消防団の再編をしたが、今後の方針は。 （２）自主防災組織のさらなる強化のため、どのような方針を持っているか。 ２　海外派遣事業について 中学生の海外派遣事業が再開される中、コロナ禍で海外派遣が中止された当時の中学生のため、高校生の募集を行い派遣することとなったが、これをコロナ禍によって海外派遣が中止された期間と同じだけ行うべきと考えるが市長の考えを伺う。

質問順位	質　問　内　容
１４ 議席 １２ 清塚武敏 （一問一答方式）	**１　これからの交通弱者の移動・外出支援をどう進めていくか** 高齢になっても障がいがあっても、今まで暮らしてきた地域で安心して暮らし続けるには、通院、買物などに伴う移動・外出が欠かせない。乗り降りに手助けが必要だったり、見守りが必要だったりと、公共交通を使うのが難しい人もたくさんいる。そういった自分で外出することに困難を感じる人たちにも、使いやすくて安心な移動手段を確保することは、これからの人口減少・高齢社会において、重要な地域課題のひとつである。全国では高齢者の移動支援について、地域の住民が主体的に取り組む住民参加型の移動支援の仕組みも拡大している。高齢者の移動・外出支援に、これからの時代に合った公共交通、市民コミュニティバス、地域が取り組む移動支援等、多様な手段が必要と考える。 （１）交通弱者の将来推計をどう捉えていて、今後の公共交通と市民バスについてどのように考えているか。 （２）地域住民や団体が主体で取り組む、高齢者の移動・外出支援に、自治体が応援する仕組みが必要ではないか。 **２　未来の里山・森林の姿をどう描くか** （１）リモートセンシング技術を用いた山林の所有者境界の明確化、地籍調査を進めるべきと考えるが。 （２）林業の振興、市民が参加できる森づくりや観光業につなげたり、森林や木材の新しい価値を見いだすためにも、森林の所有者と地域で一体となった取組が重要と考えるが。

質問順位	質　問　内　容
１５ 議席 6 田中せつ子 （一問一答方式）	１　ベーマガスタジアムの活用について 本格的なウイズコロナ社会が始まり、地域の祭りやイベントも再開され、観光客も戻りつつある。人の動きが活発化してきた中で、ベーマガスタジアムのさらなる活用により、人を呼び込む積極的な取組が必要と考える。 （１）当初見込みどおりの活用ができているか、９年間の課題と成果を伺う。 （２）感染症拡大を経験し、屋外イベントのよさが見直されている。野球場をスポーツだけでなく、イベント誘客施設として活用できないか。 ２　地域防災力の向上について 急激な人口減少と高齢化が進み消防団員が減少し続ける中で、災害や火災が発生したときへの不安の声がある。市民の命と暮らしを守るため、地域防災力の向上をどう図るかが大きな課題と考える。 （１）消防団員減少への対策と取組は。 （２）部内で軽積載車や小型ポンプの配置場所の変更は可能か。 （３）南魚沼市地域防災計画には消防団の充実として訓練を通じ、防災意識の高揚と技術の向上を図るとあるが、どう実施しているか。 （４）有職者が多い消防団員をカバーするには、消火栓を使った初期消火が必要になるが、住民への訓練指導は十分か。 （５）地域防災組織と消防団員の連携強化が図られるよう、総合防災訓練を充実するのか。 （６）戦略プロジェクトにある救急講習受講者数の目標は達成できるか。

質問順位	質　問　内　容
１６ 議席 ２２ 関 常 幸 （一問一答方式）	１　浦佐川西地区都市計画道路について 浦佐川西地区都市計画道路の見直し（廃止等）は、毘沙門様に合ったまちづくりを進める上で不可欠であるが、市長の考えを伺う。 ２　景観計画策定について 昨年９月１日に景観計画策定委員会設置要綱を定めた。本年度の当初予算で、319 万円計上している。 景観計画策定の基本的な考え方や今後のスケジュールを伺う。 ３　学園都市構想について 来年４月に、北里大学の新潟キャンパスとして９番目の学部である健康科学部が開設される。魚沼地域初の４年制大学である。 国際大学と北里大学、新たなまちづくりの視点から学園都市構想について市長の見解を伺う。 ４　只見線浦佐駅発着について 交流人口増加のために、只見線浦佐駅発着を推進する組織として、魚沼市や福島県の市町村と期成同盟会を設置することが重要と思うが、市長の見解を伺う。 ５　南魚沼市合併２０周年記念事業について 庁内で検討協議を進めていることと思うが、その内容を伺う。検討協議がこれからであれば、市長の考えを伺う。

質問順位	質　問　内　容
１７ 議席 ２ 川辺きのい （複合型一問一答方式）	**１　今後の住民健診及び地域医療の方向性について** ゆきぐに大和病院に隣接されている現在の健友館を、市民病院の隣に移転新築し、健診以外の機能も備えた施設の建設が計画されている。 市民からは、建設計画に関わる様々な不安や懸念の声が上がっている。 （１）建設する健診施設は、市全体の保健・医療・福祉の構想・計画の中で、どのような位置づけで、どのような機能を持たせるのか。 （２）高齢化が進み、移動の足の確保が大きな課題となっている中、住民健診や人間ドックを受ける方をどうやって広げていくのか、また移動健診や送迎体制について伺う。 （３）ゆきぐに大和病院を移転新築する計画になっているが、必ず実行できるのか、また日程的な見通しはあるのか。 （４）医療のまちづくり市民会議では、地域医療の充実をテーマにしていくべきではないか。 **２　マイナンバーカードの普及促進と住民福祉について** （１）国は全ての国民がマイナンバーカードを持つとしているが、基本的な管理の責任がどこにあるのか、住民福祉の増進を役割とする自治体の長としての認識を伺う。 （２）国は、マイナンバーカードに健康保険証をひもづけて、保険証を廃止するとしている。多くの市民と、福祉や医療の現場からも懸念の声が上がっているが、市長の認識を伺う。 （３）当市として、懸念の声に応えるためにどのように対応し対策を取っていくのか。

質問順位	質　問　内　容
１８ 議席 9 勝又貞夫 （一問一答方式）	**１　防犯カメラの設置について** （１）庁舎、市民会館、スポーツ施設、学校、保育園、医療施設、福祉施設など、公共施設の防犯カメラの設置状況について問う。 （２）公共施設の防犯カメラの設置について、今後の市の考え方を問う。 **２　ドライブレコーダーの設置について** （１）通学通園用のバスなど、公用車にはドライブレコーダーを設置するよう、その提案を含めて一般質問を繰り返してきたが、その後の設置状況を問う。 （２）ドライブレコーダーの設置について、今後の市の考え方を問う。 **３　学校などの統合について** （１）少子化の流れを受けて、教育の分野でも学校などの統合が進んでいるが、今後予想される動きについて問う。 （２）統合のメリットとデメリットについて問う。 （３）小規模特認校については、今後統合の対象となる可能性があるか否かを問う。